

移民問題

平成 23 年 6 月 20 日
法学部 3 回生 太田由紀雄

- . はじめに
- . 現状把握
- . 労働人口増加の施策
- . 諸外国における移民受け入れ
- . 日本における移民受け入れ
- . おわりに

- . はじめに

日露戦争時、陸軍兵士には 25 万人もの脚気患者がいたといわれている。脚気の原因はビタミン B1 不足であり、それが様々な機能不全を引き起こしたのだが医務局長であった森鷗外が脚気は病原菌が引き起こすものと信じきっており、ビタミン B1 の入った食事を兵士に与えなかったことが悲劇に繋がった。

現在の日本もこれと似た状態にある。日本は病気を患っているが、真の原因から目を逸らし、悪役を必死になって探している。しかし、それでは永久に病気は治らない。

今回の勉強会では病気の特効薬として期待されている移民受け入れについて取り上げ、その効果と副作用について考えていきたい。

- . 現状把握

- ・日本の二大癌

財政悪化 の原因...無駄な公共事業？景気低迷による税収減？無駄が多すぎるから？

経済不況 の原因...生産性？円高？輸出不振？マスコミ報道？

どれも真の原因ではない

財政悪化と経済不況...実は全く同じ原因 これを治療しない限り、取り除いても再発
病気の真の原因...労働人口の減少と老年人口の増加 つまり、人口構造の変化

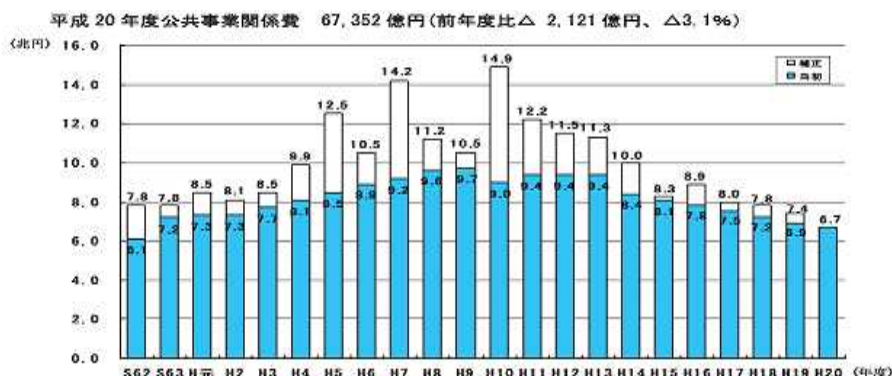
- ・財政悪化

日本の 1000 兆近い借金はどうやって生まれたか

公共事業費...小渕時代は多かったが、小泉改革により削減(図1)¹
 代わりに高齢者への社会保障費が増大(図2)

財政悪化の要因 = 高齢化

1人の高齢者を2.5人の労働人口で支える...困難 借金でカバー
 25年には1人あたり2.0人、50年には1.3人...更に困難に



(図1 公共事業費の推移 財務省 HP より)



(図2 社会保障給付費の推移 厚生労働省 HP より)

・経済不況

日本の輸出額...伸び続けている(図3)

BUT 経済成長率...反比例するように低迷(図4) 所得格差の拡大、賃金の減少

なぜ? 国内消費(内需)が縮小しているから(図5)

なぜ? 高齢化が進んでいるから²

好況・不況の真の原因 = 人口の波³(図6)

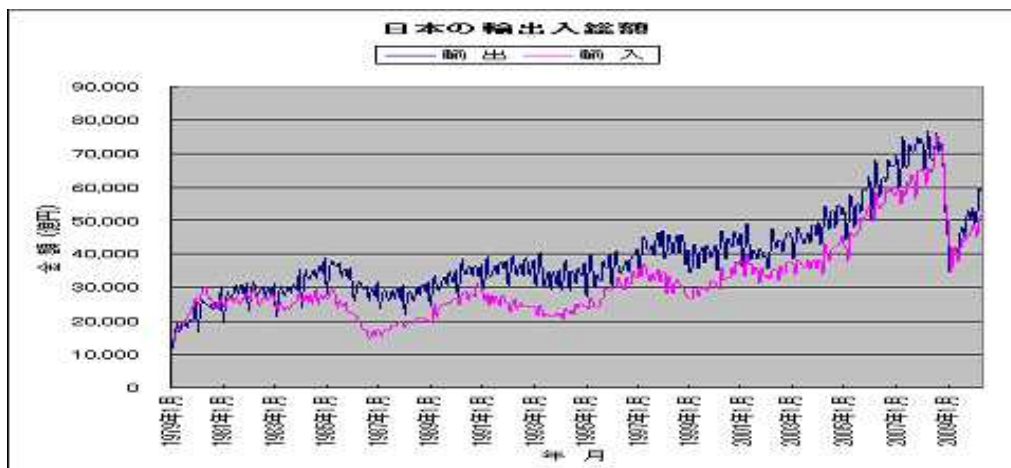
¹ この際、他の無駄も削減されている。これが民主党が仕分けをしても大きな効果が出ない結果に繋がる。

² 高齢者は若年層に比べて消費をせず、貯蓄(将来の医療福祉関連支出の先買)をする傾向が強い

高度経済成長 人口ボーナス期⁴ (60年~80年代) 00年代以降 = 人口オナス期

今の日本の「不況」 = 労働人口減少

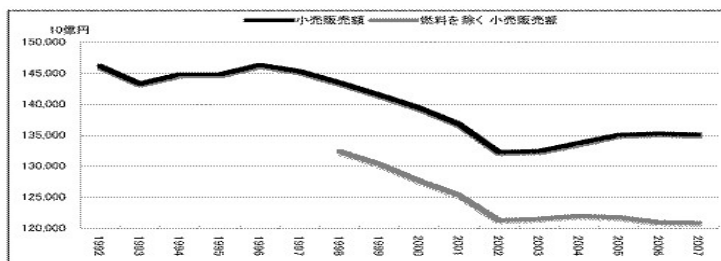
低い出生率...今後の更なる労働人口減少 = **更なる状況の悪化**



(図3 日本の輸出入総額 財務省 HP より)



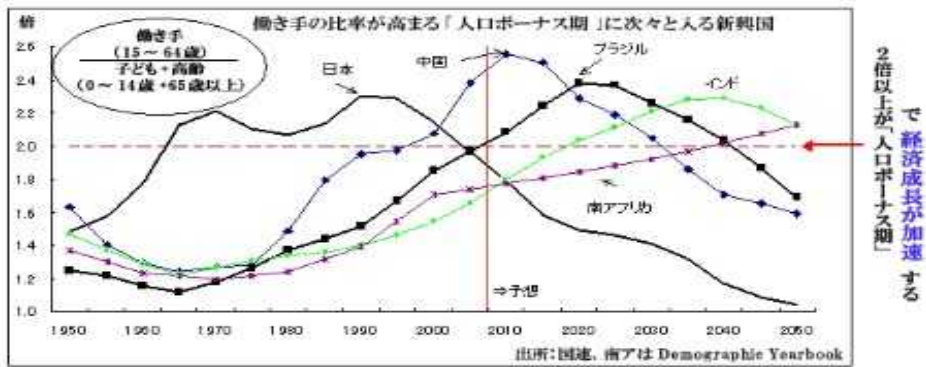
(図4 日本の経済成長率の推移 内閣府 HP より)



(図5 小売販売額の推移 経済産業省 HP より)

³ 人口で無いところに注意、大事なのは人口構造。戦前の日本の人口は8000万だから多少減っても問題ないという意見は人口構造が当時のピラミッド型に戻れば通用するが、当時とは人口構造が違いすぎるので全く当てはまらない。

⁴ (15~64歳人口)/(~14歳+65歳~)の値が2以上になり、経済成長が加速しやすい期間のこと。人口オナスはその逆で、高齢者や子供に比べて労働人口が少ない状態。



(図6 日本の労働人口÷(子供+高齢者)の割合 エース証券 HP より)

・労働人口増加の施策

労働人口の不足と老年人口の過剰...日本を蝕む病(不況・財政悪化)を発生

財政: 社会保障費による財政の圧迫 失業(景気)対策が困難

不況: 景気の悪化 税収低下 互いに連動しており、片方でも解決すれば状況が緩和

問題解決...老年人口を減らす OR 労働人口を増やす

前者は論外 後者の対策として

高齢就業者を増やす

女性の社会進出

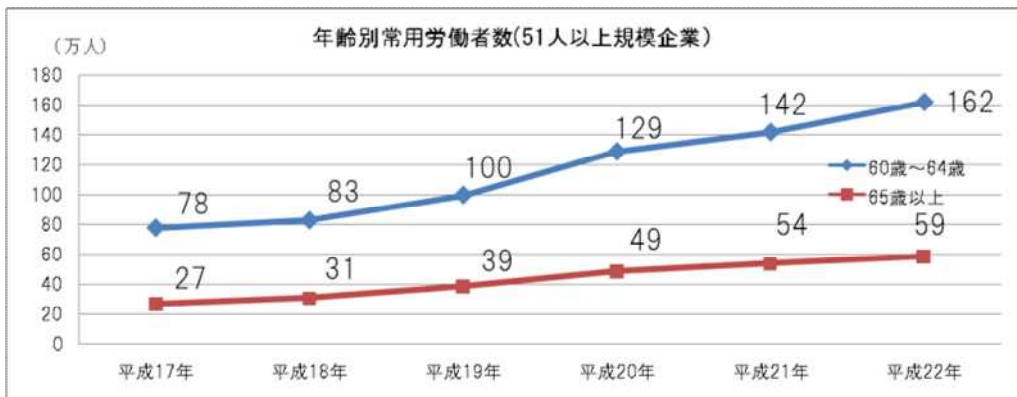
出生率を上げる

などが挙げられる

高齢就業者を増やす

年金支給額を引き下げ、代わりに高齢者も働いてもらう

高齢就業者は増加傾向



(図7 年齢別常用労働者数 厚生労働省 HP より)

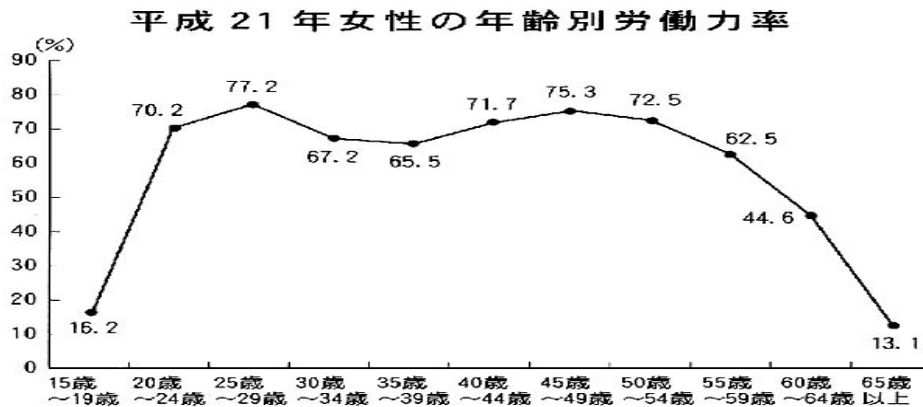
問題点...働けない高齢者も多数、増え続ける医療費は減らせない

女性の社会進出

日本の人口の半分は女性

女性の就業率...50%弱

ならば、彼女らに働いてもらえば良い？



(図8 女性の年齢別労働力率 厚生労働省 HP より)

問題点...昔と違い、女性の就業率が高まっている 学生と老人が下げているだけ

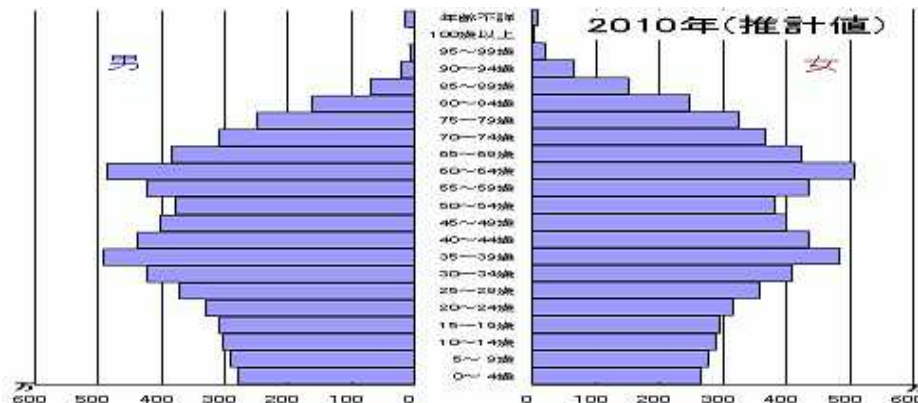
労働人口を増やす効果は低い

出生率を上げる

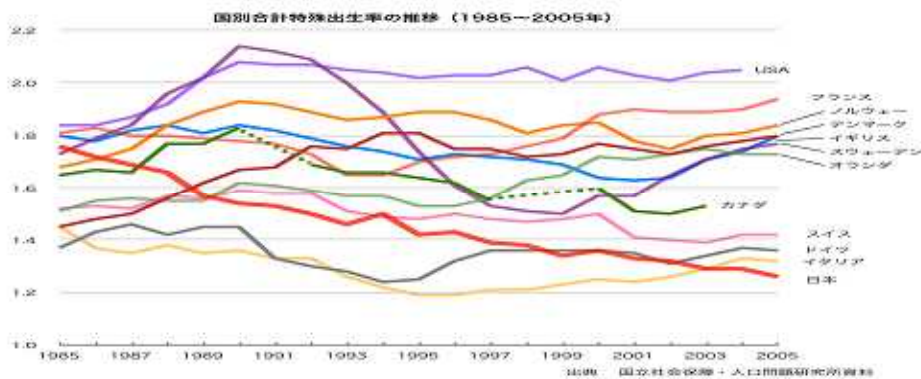
子供が増えると一時的に人口ボーナス 20年後には人口ボーナス 最高の投資になる

問題点...団塊の世代は若い世代の二倍の人数 逆ピラミッド(図9)のため出生率は2程度では足りず、3や4必要

先進国で出生率が2以上の国は殆どない(図10)



(図9 人口ピラミッド 厚生労働省 HP より)



(図10 合計特殊出生率の推移 人口問題研究所 HP より)

高齢者が働くこと

M字カーブの解消、他の先進国並に女性就業率を引き上げること

出生率を上げること

これら3つは当然取るべき(取らざるをえない)政策

これだけで人口構造に対抗するのは難しい もっと根本的な対策が必要

世界の人口...70億人 過剰

東京以外の日本...人口不足 関西圏ですら人口減少

人口過剰の中国・インド・インドネシアなどから移民として来てもらえば良い

・諸外国における移民受け入れ

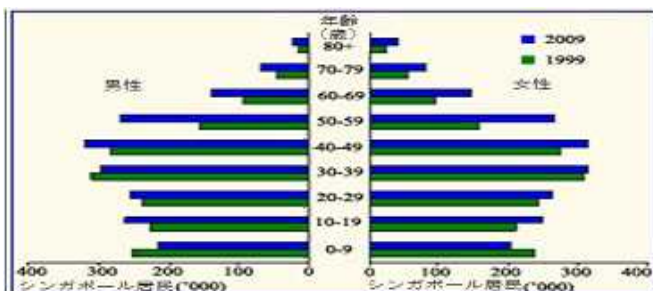
実際に移民を受け入れ、人口減少を食い止めている事例を紹介

・シンガポール(移民受け入れの成功例)

少子化が深刻(出生率1.2)しかし、人口は増加(80年から2倍の人口に)

少子化を移民でカバー(3~4人に1人が移民) 1人あたりGDPではシンガポール>日本

人口構造が正常なのが要因か(図11) 最近では人口過剰で移民受け入れを抑制気味



(図1 1 シンガポールの人口構造 子ども学研究所 HP より)

成功要因...英語圏である、富裕層や投資家の呼びこみに成功

日本との違い...人口(シンガポールは現在でも 500 万人程度)受け入れる移民の絶対数

・フランス(移民受け入れ失敗例)

移民...総人口の 8%程度

60 年代まで...ヨーロッパ系移民

60 年代以降...旧植民地(アルジェリア・モロッコ・チュニジア)からの移民 イスラム系

ヨーロッパ系移民=フランス人に文化的に近く文化的適合が容易 概ね成功

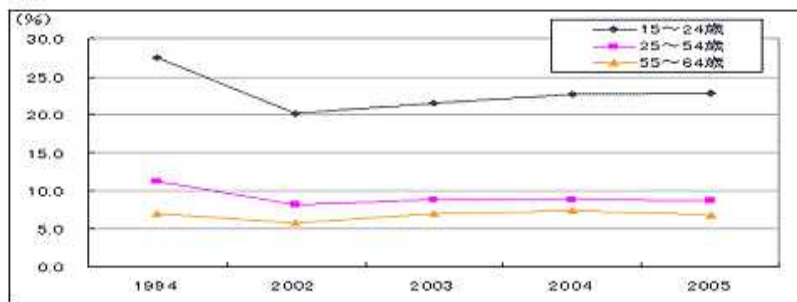
イスラム系移民=フランス人になりきれない 二世三世は『ペーパーフランス人』⁵

移民二世三世...人種差別、失業、就職差別、貧困、教育、宗教問題 パリ暴動事件⁶

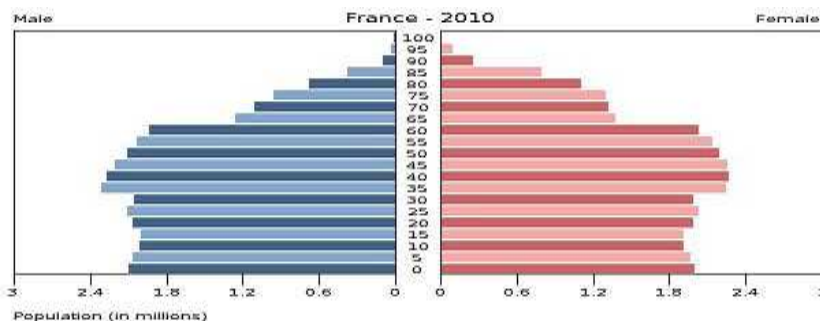
移民排斥運動激化...国民戦線⁷の台頭、反移民のサルコジ政権誕生

多文化共生...難しい(ドイツでもイギリスでも失敗⁸)

失敗要因...高失業率(図1 2) 移民に限らず、若年層は失業率が高い=仕事の奪い合いによる人種間の対立⁹



(図1 2 フランスの世代別失業率 OECD の HP より)



⁵ フランスでは親が外国人でもフランスで生まれた子供はフランス人として扱われる。書類上ではフランス人でも実際にはフランス人になりきれない移民の二世三世のことを指している。

⁶ 2005 年に警察に追跡された北アフリカ出身の若者が感電死したことが発端になり発生した暴動。

⁷ 移民排斥を掲げる極右政党。他には公務員削減、死刑復活、減税などの政策を掲げている。

⁸ メルケル首相(独)・キャメロン首相(英)は「多文化共生は失敗だった」と語っている。

⁹ 失業率の問題は移民よりもフランスの経済・社会制度に大きな原因があるが、移民制度に責任が押し付けられている。フランスに限らず、マイノリティである移民は問題の責任を押し付けられやすい。

(図13 フランスの人口構造 人口問題研究所 HP より)

・日本における移民受け入れ

日本はまだ移民受け入れをしていない。これからどうすべきか

章で挙げた対策...病の進行を遅らせるのが精一杯

移民受け入れ...労働人口を増やす強力な栄養剤

少量では効果が無い BUT 大量の摂取...副作用

・主な副作用

全体賃金の低下...移民の安価な給料に引っ張られ、同じ仕事をしている労働者の賃金が下がる

文化の摩擦の発生...日本人間の「常識」が通用しない

治安悪化...低所得である、文化の違いで社会に馴染めない 犯罪率が高まる傾向

これらの副作用... 移民 = 安価な労働力 が原因

EU 諸国...移民の対象を安価な労働力 エリート層・高技術労働者 に転換

では、日本でそれが可能か...不可能 選択権があるのは移民側

言葉の壁...英語圏のアメリカ、シンガポールに比べてマイナー言語の日本は不利

人口減少を移民で補う...1700 万人もの移民受け入れが必要¹⁰

・その他問題点

依存性...移民も何十年後かには老年人口化 支えるために更なる移民受け入れが必要

本国への送金...国内で全ての賃金が消化されるわけではない

これだけ問題が発生する可能性があるのに移民を受け入れなければならない？

・おわりに

私は移民受け入れは避けられないと考えている。 章で述べたように移民受け入れはリスクが大きいですが、 章で述べた人口構造の変化はそれを遥かに超えており、 章の対策だけではとても対応できない規模だからである。国連人口部の試算は日本の人口構造がいかに歪であるかを如実に表しているといえよう。

¹⁰ 国連人口部の試算による 2050 年までに必要な移民。1700 万人というのは人口総数を維持するために最低必要な数であり、労働人口を維持するためには 3200 万人、労働人口が老年人口の 3 倍以上を維持するには 9500 万人、老年人口に対して労働人口の比を維持するためには 5 億 2000 万 (!) の移民受け入れが必要。

しかし、大勢の移民を受け入れるのにも反対である。景気が上向いても雇用が全員に行き渡るとは限らないし、景気が落ち込んだ際にはフランスのように仕事の奪い合いになり日本人と移民の双方の悲劇に繋がる。それよりも 章で挙げたような対策を積極的に行い、受け入れる人数を減らしつつ足りない分の移民受け入れを進めるべきである。その代わりに十分な給料を得られるように厚遇し、 章で挙げた副作用の緩和を目指すのが良いのではないか。 章で挙げたように多文化共生は難しいため、厚遇と引き換えに日本と「同化」して日本人になってもらう。

安価な労働力を目的として移民を受け入れるのではなく、日本の人口を増やすことを目的とする移民受け入れを提案したい。

・参考文献

- 浅川晃広『オーストラリア移民政策論』中央公論事業出版,2006年
アラン・バティヴ『サルコジとは誰か?』水声社,2009年
京極高宣『日本の人口減少社会を読み解く』中央法規出版,2008年
小林薫「ドイツの移民政策における統合の失敗」ヨーロッパ研究 8章 p119-139,2009年
ジークリット・ルヒテンブルグ『ヨーロッパとオーストラリアの移民問題と教育政策』明石書店,2008年
自由民主党 外国人材交流推進議員連盟「人材開国!日本型移民政策の提言」2008年
鈴木準『人口減少社会は怖くない』日本評論社,2005年
高山直也「フランスの移民対策」人口減少社会の外国人問題 p236-241 2008年
田中信世「ドイツの人口問題と移民政策」国際貿易と投資 NO.51 p18-21 2005年
平出重保「フランスの移民政策の現状と課題」立法と調査 NO.293 p3-11 2009年
藻谷浩介『デフレの正体』角川書店,2010年

・参考 Web サイト

- エース証券 <http://www.ace-sec.co.jp/>
OECD <http://www.oecd.org/>
経済産業省 <http://www.meti.go.jp/>
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
子ども学研究所 <http://www.crn.or.jp/>
財務省 <http://www.mof.go.jp/>
人口問題研究所 <http://www.ipss.go.jp/>
内閣府 <http://www.cao.go.jp/>